

授業科目 高次機能障害学

【担当教員名】 能登 真一	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	○	○	◎	○

【概要・一般目標：G10】

脳損傷によっておこるさまざまな高次脳機能障害について、理学療法士が臨床現場でそれらを的確に評価し、あるいはそれらの障害に対して的確なアプローチができるように、基礎知識を整理した上で、評価方法、アプローチ方法などを学習する。

【学習目標・行動目標：S80】

1. 高次脳機能障害を学ぶための脳解剖知識が整理できる。
2. 高次脳機能障害の個々の症状を列記し、それらが生じるメカニズムを理解できる。
3. それぞれの高次脳機能障害に対応する評価方法を述べ、一部を実施できる。
4. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチの基本姿勢を説明することができる。
5. 個々の高次脳機能障害に対するアプローチ方法について、議論できる。
6. 高次脳機能障害に関心を持ち、治療者としての責任感を身に付けることができる。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳解剖の整理と高次脳機能障害の概説	1	講義
2	高次脳機能障害の臨床像	2, 3	講義
3	失語、失行、失認とその評価・アプローチ方法	3 ~ 6	講義、演習
4	注意障害、記憶障害とその評価・アプローチ方法	3 ~ 6	講義、演習
5	半側空間無視とその評価・アプローチ方法	3 ~ 6	講義、演習
6	Pusher 症候群とその評価・アプローチ方法	3 ~ 6	講義、演習
7	前頭葉症状とその評価・アプローチ方法	3 ~ 6	講義、演習
8	まとめ	1 ~ 6	講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 (必ず購入する書籍)	今のところ未定			
参考書				
その他の資料				

【評価方法】	【履修上の留意点】
出席+態度+期末試験によって判定する	